

図書館だより

7月

令和5年7月14日

明和中学校図書館



夏休みの貸出について

暑い日が続くようになりました。早いもので、まもなく夏休みがやってきます。それぞれ充実した夏休みになるよう心がけましょう。夏休み期間中、図書館は下記の日程で開放します。きまりを守って利用しましょう。

◇夏休みの図書館開放日程◇

月	火	水	木	金
			7/20 終業式	7/21
7/24 ×	7/25 ○	7/26 ○	7/27 ○	7/28 ×
7/31 ○	8/1 出校日	8/2 ○	8/3 ○	8/4 ×
8/7 ×	8/8 ○	8/9 ○	8/10 ○	8/11 山の日
8/14 ×	8/15 ×	8/16 ×	8/17 ×	8/18 ×
8/21 ○	8/22 ○	8/23 ×	8/24 ○	8/25 ×
8/28 ×	8/29 ○	8/30 ○	8/31 ○	9/1 始業式

開館日=○ 閉館日=×

【開館時間】

午前 9:30 ~ 12:00

午後 13:30 ~ 16:00

【貸出冊数】

1人5冊まで

【利用のきまり】

- 図書館を利用するときは制服か部活の服装で。
- 普段から学校に持ってきてはいけない物は持ち込まない。
- 図書館内では静かに過ごす。
- 使った机や椅子、本は元あった場所に片づけて帰る。

※ 開放日は都合により変更する場合があります。

夏休みの特別貸出

7月18日(火) ~ 8月31日(木)

5冊まで借りられます

返却が遅れている人は、借りている本を返却してから！返却しないまま追加で借りることはできません！

読んでみない？

『人生に迷ったら知覧に行け』 永松茂久 著

著者は祖父から聞いて訪れた知覧で、特攻隊員のこと、それを支えた人たちのことを知る。若くして散った先人たちと、知覧が教えてくれたこと。日本人として、鹿児島に住んでいる者として知っておきたい、特攻隊員にまつわる数々のエピソードが満載。

名作まちがいさがし

『奥の細道』より“立石寺” 松尾芭蕉

『奥の細道』の道中、松尾芭蕉は弟子の河合曾良と共に山形にある立石寺を訪れました。山の上のお堂の近辺は静けさに包まれていて、芭蕉は「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」という有名な句を残しました。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。



答えは図書館で!

作品の概要・解説

江戸時代の俳人、松尾芭蕉（一六四四～一六九四年）の俳諧紀行『奥の細道』に「立石寺」という一節があります。

旅の途中、芭蕉は山形領の立石寺という山寺に立ち寄ることにしました。そこが清浄で静かな場所と聞き、予定を変更して向かったのです。日暮れ前に到着してお堂を訪ねましたが、すでに扉は閉ざされていました。周囲の木々は古びていて、土や石は苔むしています。静まり返る山中で詠んだ句が「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」です。

『奥の細道』の旅路は、一六八九年の春に江戸の芭蕉庵を出発し、五か月半をかけて奥州から北陸を巡り、岐阜の大垣で終わる、二四〇〇キロメートルにも及ぶ長い道のりでした。その中で芭蕉は五〇に及ぶ句と共に、旅の情景や感じたことをつづっています。有名な句には「夏草や兵どもが夢の跡」「五月雨をあつめて早し最上川」などがあります。成立したのは一六九四年ごろですが、発刊は没後の一七〇二年でした。なお、立石寺は現存し、当時の様子をしのぶことができます。

※『奥の細道』は各出版社から発行されています。